日中対照言語学会第 32 回大会（2014 年度冬季大会）のご案内

記

日　時：２０１４年１２月７日（日）午前９時００分より午後５時３０分まで

会　場：大阪産業大学梅田サテライト（ＪＲ大阪駅南口下車、阪神百貨店右の通りを直進、徒歩約５分、大阪駅前第三ビル１９階。大阪市北区梅田１－１－３。電話 06-6442-5522）

参加費：１０００円（会員、非会員共通）

プ　ロ　グ　ラ　ム

受付（9：00－）　　総合司会　下地　早智子（神戸市外国語大学.）

大会開催校挨拶　張　黎（大阪産業大学）　9：20－9：25

開会の辞　于　康（関西学院大学）　9：25－9：30

研究発表１．日本語と中国語の漢字同形語の意味的相違をめぐって―日本語の「深刻」と中国語の“深刻”―　9：30－10：10
任川海（上海外国語大学助教授、京都外国語大学研修）

研究発表 2.　日中翻訳――天声人語（2009.02.05）を例に　10：10－10：50
続三義　（東洋大学）　以上司会　彭飛（京都外国語大学）

休憩（10：50－11：00）

研究発表 3. 中国語の結果補語“～到”と“～见”について　11：00－11：40
陳莹（新潟大学大学院）

研究発表 4. 現代中国語の方向補語に関する研究―“V 上”と“V 起来”の文法的の使いと意味的分析を中心に―　11：40－12：20
郅鴎（シツオウ）（新潟大学大学院）　以上司会　安本真弓（高千穂大学）

昼休み（60 分　ビルの階下に食堂街あり）　12：20－13：20

講演　中国語鼻音韻尾と日本語撥音の調音・知覚上の相違　13：20－14：20
朱春躍（神戸大学）　司会　于康（関西学院大学）

休憩（10 分：14：20－14：30）

研究発表 5. 程度表現の対照研究―願望のモダリティ―　14：30－15：10
時衛国（愛知教育大学）

研究発表 6. 限定的連体修飾節におけるテイタに関する一考察―途切れの意味を中心に―
王守利（千葉大学大学院）　15：10－15：50
以上司会　竹島毅（大東文化大学）

休憩（10 分：15：50－16：00）

研究発表 7. 村上春樹『ノルウェイの森』と林少华译《挪威的森林》－Ⅰ――転換（日→中）（286 例）の「受身」関係（141 例）を中心として－　16：00－16：40
藤田昌志（三重大学）

研究発表 8. 文化と言語　16：40－17：20
高橋弥守彦（大東文化大学）　以上司会　余維（関西外国語大学）

閉会の辞　続三義（東洋大学）　17：20

※昼食の間、拡大常務理事会を開催予定

※当日入会申し込み、学会費の納入も受け付けます。（年会費：社会人 4000 円、院生 2000 円）

日中対照言語学会
第 32 回大会（2014 年度冬季大会）発表要旨

講演　中国語鼻音韻尾と日本語撥音の調音・知覚上の相違

朱春躍（神戸大学）　　**司会　于康（関西学院大学）**

要旨

日本語と中国語では音節末の鼻音の体系に違いがあり，その調音的特徴も異なっている。まず，日本語の音節末鼻音（いわゆる「撥音」）/N/は音韻的には 1 つの音素であるが，音声学的には先行・後続母音との「調音結合」によって様々な調音位置の異音を持つ（今田 1989，朱 2001）。一方，中国語の音節末鼻音（いわゆる「鼻音韻尾」）は/n/と/ng/という 2 つの音素があるが，実際の発話では日本語同様に先行・後続母音の影響を受けて様々な調音位置の異音を持っている（王 1999，朱 2007）。

日中両言語における音節末鼻音の体系・調音的相違は，外国語教育の場で大きな問題となっている。例えば，中国語教育において中国語の/n//ng/を区別して習得することは知覚・調音のいずれの面でも困難であり，しばしばコミュニケーションの障害となることが多くの研究で指摘されている（王蘊佳 2002，董玉国 2007）。また，日本語教育においても/N/の習得は簡単ではなく，中国人日本語学習者の/N/は調音点とリズムの微妙な違いに対応できず，日本語としては不自然に聞こえることが多い（文化庁 1971，内田 1995）。中国語/n//ng/と日本語の撥音/N/の出現頻度はどちらも高く，発音指導では無視することができない重要な要素である。

そこで，本研究では，先行母音を a, i とする中国語 n,ng、日本語 N に対し，様々な後続子音環境の中での鼻音の振る舞いを MRI 動画により観察し，さらに知覚実験を通して，

1.様々な後続音環境の中に現れる鼻音の調音点は一定しない

2.調音点の情報のみによる中国語の n，ng 判断は極めて難しい

3.主母音の相違が中国語 n，ng 知覚の決定的根拠

4.日本語の母音は後続鼻音の影響を受けにくい

等の知見を得た。

これらの知見は，言語学上の意義を持つばかりでなく，外国語教育における発音指導にも大きな示唆を与えるであろう。

研究発表

①. 任川海（上海外国語大学助教授、京都外国語大学研修）

発表テーマ：日本語と中国語の漢字同形語の意味的相違をめぐって―日本語の「深刻」と中国語の“深刻”―

要旨:　本稿では、日本語の「深刻」及び中国語の“深刻”と共起する動詞や名詞の違いの考察によって、両者の意味や用法の特徴及び訳語の特徴などを解析する。

中国語の“深刻”と日本語の「深刻」は意味が完全に異なるため、置き換えることができない。中国語の“深刻”はプラス評価の意味、またニュートラルな意味として用いられることに対して、日本語の「深刻」はマイナス評価の語感が強い。“深刻的认识”（深い認識）、“深刻的印象”（深い印象）のように中国語の“深刻”は日本語の「意味深い」、「奥深い」、「深い/深く」、「大きい/大きく」、「強い/強く」、「はっきりと」、「きちんと」などで対応する。一方、日本語の「深刻」は中国語の“严重”“感觉情况严重”“严峻”“凝重”“严肃”などで対応する。

《详解日汉辞典》では、「深刻」に関しては、“深刻。严重”と解釈されている。中国語の“深刻”は「深刻」とは完全に意味が異なるため、“深刻”を「深刻」と対応しては問題となる。また同辞書には、「深刻」が持つ「非常に切迫した事態に心がとらわれている様子」という意味の解釈が欠けているため、大きな不備であると指摘しておきたい。

②. 続三義　（東洋大学）

<u>発表テーマ：</u>日中翻訳――天声人語（2009.02.05）を例に

要旨:　小論では、「天声人語（2009.02.05）」に関する、ある出版物の中国語訳を主な検討対象とし、学生の中国語訳の宿題も少し取り上げ、日本語の「官僚」「一周忌」「天下り」「競う」「わたり」「渡り着く」「烈士」「滞空時間」「背景」「ため」などの中国語訳を検討し、語彙的な意味の分析からその翻訳の適否を分析する。そして、ある文章を成り立たせるためのキーワードの取り扱いについて、文化翻訳論的な角度からその重要性を指摘し、翻訳という作業の難しさを論じた。こうした分析の上、翻訳の試案を示し、皆様と分かち合いたいと思う。

③. 陳莹（新潟大学大学院）

<u>発表テーマ：</u>中国語の結果補語“～到”と“～见”について

要旨:　到”と“见”は、よく動詞に後続し結果補語として用いられる。“见”と接続できる動詞は、例外なく“到”と共起することができる。「動作の完結」を表す場合はたいてい置き換えられ、両者の意味もかなり近くなるが、常に置き換え可能であるとは限らない。例えば：

(1) 看不{见/*到}，摸不着。（見ることも、さわることもできない。）

(2) 他看来看去，从卧室看{到/*见}客厅，最后也没说什么就走了。

（彼はあちこち回って、寝室から客間まで見たが、結局何も言わずに帰った。）

(3) 我看{到/*见}第五页了。（私は、第五頁まで読んできた。）

(4) 小芳最近遇{到/*见}了性骚扰。（最近、芳ちゃんはセクハラにあった。）

“～到”と“～见”の使い分けについては、これまでかなりの成果がある。しかし、両

者の「表現機能」の研究はまだそれほど行われていない。“～到”は、動作移動を表わしており「終点」を強調しているが、“～见”は「生理機能」の「感知」という意味がある。その結果、(1)は「視力」関係の話で“～见”しか使えない；(2)、(3)のような「変位」要素を強調する文では、“～到”のみが使われる；そして(4)の客体は抽象的な出来事なので、“～到”を使う。

本稿は具体的な用例から“～到”と“～见”の「表現機能」を検討する。そして、認知言語学の視点から、両者の相違を改めて分析する。

④. 郅鴎（シツオウ）（新潟大学大学院）

発表テーマ: 現代中国語の方向補語に関する研究—“V 上”と“V 起来”の文法的の使いと意味的分析を中心に—

要旨: 現代中国語の中で、“V 上”と“V 起来”が動作の趨向を表す時、置き換えられる場合と置き換えられない場合がある。本稿では、先ず“V 上”と“V 起来”が趨向を示す時に置き換えられる動詞と置き換えられない動詞を分類して、その動詞と例文に基づいて、“V 上”と“V 起来”の使用条件を明らかにしたい。

(1)我回到碧潭边，换上大号鱼钩，不一会儿便{钓上 / 钓起来}了两条大鲤鱼。 (私は緑の淵に戻って、大きいサイズの釣り針に取り替えて、間もなくすでに大きい鯉２匹を釣りあげた。) （忻趵《长翅膀的猫》）

例(1)では、“钓上”と“钓起来”が鯉を淵(下)から上に釣り上がることを表現する。

(2)黄狗坐在船头，每当船拢岸时必先{跳上 / *跳起来}岸边去衔绳头，引起每个过渡人的兴味。(茶色犬は船首に坐って、船が岸に着くと必ず索をくわえ、岸に跳びあがり、すべての渡船客の興味を惹いた。)（沈従文《辺城》）

例(2)で、“跳上”は犬が船(出発点)から岸(終点)までへの移動することを表現している。“跳起来”は動作の終点がないので、“跳起来岸边”が不自然な文になる。

“V 上”と“V 起来”は、趨向を示すとき、置き換えの制限は二つある。第一に、“V 上”では、動作の出発点は“下”になる場合が非常に多い。“V 起来”では、出発点の限制がない。第二に、“V 上”では、動作は目的点或いは終点がある。“V 起来”では、動作の目的点と終点がほとんど無い。

⑤. 時衛国（愛知教育大学）

発表テーマ：程度表現の対照研究—願望のモダリティ—

要旨: 本研究は中日両語の程度副詞と発話・伝達のモダリティの一つである＜表出＞における願望のモダリティ表現との関係について考察したいと考えている。両語の程度副詞はいずれも願望のモダリティ表現と共起することができるという点では共通している。

(1) a {稍微／略微／多少／很} 想吃一点。(少し食べたい)

b {太／极／非常／很／十分／相当／更／最／顶／比较} 想吃饺子。(ギョーザを沢

山食べたい)

(2)a 国連は、平和の維持、構築、紛争の未然防止上にその機能を十分に{もっと／さらに}果たしてもらいたい。(『読売新聞』1992.1.30)

b「拙すぎるわよ------。でも、あなたの魚が大きくなって、湖いっぱいになって泳ぐのを、わたし見たいわ。とても{*極めて／非常に／*最も／*一番／*比較的}見たい------」(船山馨『放浪家族』P174集英社文庫1981)

しかし、中国語の程度副詞は「极想喝啤酒(ビールを飲みたくてたまらない)」のように共起できるが、それに対応すると見られる日本語の程度副詞は、「??極めてビールを飲みたい」のように共起できない。

本研究はこれまでの先行研究を踏まえ、程度副詞と願望のモダリティ表現が共起する場合を中心に、比較対照することとする。

⑥. 王守利（千葉大学大学院）

発表テーマ: 限定的連体修飾節におけるテイタに関する一考察―途切れの意味を中心に―

要旨: 本稿は内の関係の限定的連体修飾節におけるテイタの「途切れ」の意味を考察するものである。具体的にいうと、連体修飾節の状態が途切れ状態変化し、主節の状態になるという意味である。そして、テンスから解放され、状態変化があるという途切れの二つの特徴を指摘し、動作持続、変化の結果持続、状態持続、繰り返し・反復、経験・記録等のほかのテイタの意味との比較を行い、以上の特徴を確認できた。また、タが含まれる連体修飾節との比較を行った。結果として、テイタが含まれる連体修飾節が主節に制約されており、主節とのつながりがあるのに対し、タが含まれる連体修飾節は、主名詞だけにかかわり、主節とのつながりがないことがわかる。工藤真由美（1995）が言うテイタの＜持続性＞、タの＜ひとまとまり性＞は連体修飾節にも表されているということがうかがえる。最後に、以上考察した途切れの意味と連体修飾節のテイタとタの比較の結論を用いて、寺村秀夫（1984）の「{*激しかった／激しい} 雨が降った。」の解釈にも有効していることを説明する。

⑦. 藤田昌志(三重大学)

発表テーマ: 村上春樹『ノルウェイの森』と林少华译《挪威的森林》－Ⅰ――転換(日→中)(286 例)の「受身」関係(141 例)を中心として－

要旨: 本研究は村上春樹著『ノルウェイの森』とその中国語訳作品、林少华译《挪威的森林》について、個別的対照表現研究を行うものである。〔今回は転換(日→中) (286 例)(以下、( )内の数字は用例数を表す。)のうち 4.1.1 受身(141)を中心として発表を行う。〕 4.1.1.1 では受身(日)→非受身(中)(126)の 1.意訳(39)、2.非受身(=「する」(日))(32)、3.存在文(20)、4.主客転換(15)(動詞の問題)、5.状態補語(9)、6.非受身(中)=使役(7)、7. “把”字句(4)について、4.1.1.2 では非受身(日)→受身(中)(15)について考察する。今回の調査、考察によって、

日本語表現の方が中国語表現に比べて受身表現が多く、更に、受身(日)→非受身(中)(126)が非受身(日)→受身(中)(15)より圧倒的に多いことが判明した。また、受身(日)→受身(中)(111)に対して、受身(日)→非受身(中)(126)と、受身(日)の半分以上が受身(中)より非受身(中)になることが判明した。(2011.12 日中対照言語学会冬季大会での当方の発表「受身表現について－日本語との対照から見た考察－」では、3 種類の現代小説とその中国語訳を調べた結果、受身(日)→受身(中)(320)に対して受身(日)→非受身(中)(647)という結果が出ている。受身(日) →受身(中)の倍以上の数が受身(日)→非受身(中)となっている。今回の結果との相違の理由についても考察する。)

⑧. 高橋弥守彦（大東文化大学）

発表テーマ: 文化と言語

要旨 ：中日両言語では語順が異なるだけでなく、視点の置き方なども異なるが、それでも基本的な対応関係はある。しかし、ごく一部だが全く対応関係がない表現もある。たとえば、次の表現である。

快，你马上来。［早くすぐ来て。］　　好，我马上就来。［はい、すぐ行くよ。］

上掲の表現は、“来”が［行く］と対応している。中国語のこの表現は感情重視の表現であり、“来”と“去”の意味に基づく空間重視の表現であれば、日本語と対応する“我马上就去。／好，我马上到。／好，我马上过去。”と言うであろう。中国語ではなぜこの表現を選ぶのであろうか。筆者は、この違いを中日両国の文化にもとめ、前者を「身内型言語」、後者を「他人型言語」と呼ぶこととする。